

いつでも どこでも 誰でも使える

学校教育で活用できる

論語章句集

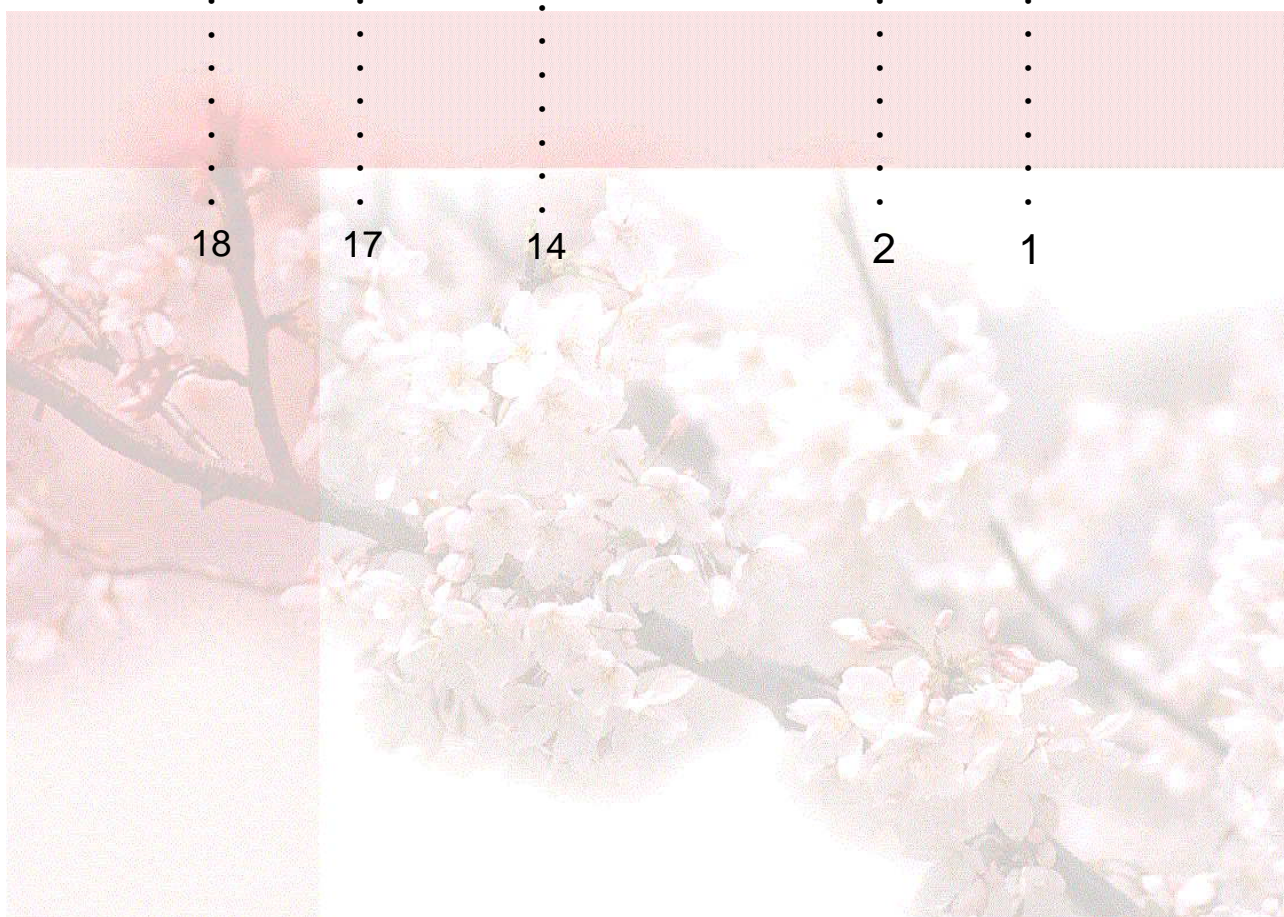
平成二十六年三月

岡山県教育委員会



目次

一	はじめに	1
二	章句集	2
	・ 思いやりの心	
	・ 自己にかかわること (学ぶこと)	
	・ 友達にかかわること (人間関係)	
	・ いろんな人間に	
三	実践事例	14
四	参考図書	17
五	章句一覧	18



はじめに

岡山県の教育のシンボル 旧閑谷学校

岡山県の特別史跡 旧閑谷学校は、江戸時代に建てられた、庶民を中心とした学問所です。国宝の講堂をはじめ、ほとんどの建造物が国の重要文化財に指定されています。旧閑谷学校の目指した教育観は、身分に関係なく、藩を越えて学びたい人が集い学んだ、純粹な「人づくり」にあり、旧閑谷学校の教育の中心に置かれたものが論語でした。

平成十八年に改正された教育基本法では、教育の目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」という項目が新たに入りました。自分たちの住んでいる岡山県を愛するために、岡山県の歴史・文化・伝統のすばらしさを子どもたちに伝える環境を整えることが大切であり、その一つの方法が旧閑谷学校に関係の深い論語を学ぶことではないでしょうか。

なぜ、論語なのか

これからの未来を背負う子どもたちには、人と人とが健全につながり合うことが必要になっています。

人と人が健全につながり合い、快適な生活を過ごすためには、規範意識や人間としての在り方や生き方の意識、人間関係構築力等、大切なことがたくさんあります。

スムーズな人間関係を築くときや、年長者、同輩、年少者と

それぞれに合わせてどう関わっていけばよいのかについての智恵やヒントが、論語には簡潔に集約されており、そこが論語の魅力といえましょう。自分がよければそれでよいというものはなく、社会全体がよくあることが望ましいという、普遍的・通年的に使えることが書かれています。

また、論語は、発達段階によって、解釈が違ってくるとも大きな特徴です。発達・成長の過程によって解釈が深まります。子どもは子どもの視点で、大人は大人の視点で、同じ論語を読み、意見や思いを交流することができ、学校だけでなく、家庭・地域における共通の話題にもなり得るでしょう。

まず、声に出して読んでみよう

論語は、黙読ではなく、声に出して音読、朗唱、群読等に向いています。論語を声に出して読むことによって、論語のもつリズム感や歯切れのよさ、古典としての美しさや伝統的な言い回しに触れることができます。

自分の声やみんなの声を耳に届けるために、はっきりと大きな声で読むことで、発声と姿勢がつながり、よい姿勢に自然となってきます。

論語を読むところからはじめ、発達段階に即して、意味を理解し、自分を振り返り行動につなげ、実践することが大切です。

岡山県青少年教育センター閑谷学校では、国宝の講堂において「講堂学習」を行っています。本物に触れ、伝統を感じながら論語を朗唱する体験は、論語の章句を知るだけではなく、実践につながることを期待できます。

二 章句集

論語の章句は、いろいろな場面で使えて、使い方も一通りとは限りません。ここには、その中の一つの例を示しています。学校や子どもたちの実態や目的、その時の状況等に応じて取り入れ、学校の方針等に沿った展開を工夫してください。

◇◆ 思いやりの心 ◆◇

〈出典…金谷治翻訳「論語」〉 ※現代仮名遣いによる

伝えたいこと	章句	意味 (○) ・ 解説 (●)	活用場面例
<p>周りの人を 好きになろう</p>	<p>① 仁を問う。子曰く、人を愛す。 (顔淵篇)</p>	<p>○仁のことをお訊ねすると、先生は「人を愛することだ」と言われた。 ●簡潔明瞭。思いやりとは「人を愛すること」である。 ●「仁」という字は、「人」に「二」で、人が二人からできている。親と子、兄と弟、姉と妹、あるいは兄と妹、おじいちゃんや孫、友達と自分。人間社会は、人と人で成り立っている。最小単位の二人が仲良くする、お互いを思いやり愛する。そのことが最も大切なことだ。</p>	<p>始業式 入学式 学級活動 論語を取り入れる最初</p>
<p>思いやりの心を もとう</p>	<p>② 其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。 (衛霊公篇)</p>	<p>○(弟子が先生に尋ねた。「ひとことだけで一生行っていくける」ということがあるでしょうか) それは、「恕(思いやり)」である。自分の望まないことは、人にしむけないことだ。 ●人を思いやる心、それが「恕」である。</p>	<p>始業式 入学式 学年始めの学級活動</p>
<p>本当の 思いやりとは</p>	<p>③ 巧言令色、鮮なし仁。 (学而篇)</p>	<p>○言葉上手の顔よしでは、ほとんどないものだ、仁の徳は。 ●他人(ひと)に対しては、誠実に振る舞うことが思いやりというものだ。</p>	<p>朝会 学級活動</p>
<p>真の姿が</p>	<p>④ 歳寒くして、然る後に松柏の</p>	<p>○気候が寒くなつてから、はじめて松や柏が散らないで残ることが分かる。</p>	<p>集団宿泊活</p>

見えるのは	彫むに遅るることを知る。 (子罕篇)	●いざという時になって、はじめてその人の真の姿が分かるものだ。友達が困っている時に手をさしよべてあげられるかな？	動
周りの人を思つて	⑤ 己に克ちて礼に復るを 仁と為す。 (顔淵篇)	○我が身を慎んで礼の規範に立ち戻るのが「仁」ということだ。 ●わがままな心に打ち勝つて、まわりの人々を敬い大切にし、謙譲の気持ちをもって立ち居振る舞いに心をくだく。そういう地道な実践の繰り返し「仁」へとつながるものだ。	朝会 学級活動

◆◆ 自己にかかわること (学ぶこと) ◆◆

伝えたいこと	章 句	意味 (○) ・ 解説 (●)	活用場面例
「学ぶ」ということ	⑥ 学んで思わざれば則ち罔し。 思うて学ばざれば則ち殆うし。 (為政篇)	○学んでも考えなければ、ものごとにはつきりしない。考えても学ばなければ、独断におちいつて危険である。 ●学ぶことと学んだことをしっかりと考え、分からない点があれば質問したり調べたりすることによって学力は身につく。いくら考えることが大切であるといても、授業をしつかり受けた本を讀んだりして学ぶことをしなければ、独断に落ちて学力は身につかないものだ。	教科オリエンテーション 学年最初の授業
常に学び続けよう	⑦ 故きを温ねて新しきを知る、 以て師と為るべし。 (為政篇)	○古いことに習熟してさらに新しいこともわきまえてゆくなら、人の師となれる。 ●過去の出来事や先人の話を謙虚に学びとり、その真実を会得することから、今に生かすべき新しい価値を発見することができる。	開校記念式典 社会見学

◆◆自己にかかわること（学ぶこと）◆◆

伝えたいこと	章句	意味（○）・解説（●）	活用場面例
<p>学んだことを 活かそう</p>	<p>⑧ 博く文を学びて、これを約するに礼を以てせば、亦た以て畔かざるべきか。 （雍也篇）</p>	<p>○幅広く書物を読んで、それを礼の実践でひきしめていくなら、道にそむかないでおれるだろう。 ●たぐさんのことを学んで、それを自分の言動に出せるようになること、きまりを守り、人に迷惑をかけずにいられる。</p>	<p>遠足 社会見学 修学旅行</p>
<p>自分のために 学ぼう</p>	<p>⑨ 古の学者は己の為にし、今の学者は人の為にす。 （憲問篇）</p>	<p>○むかしの学んだ人は自分の修養のためにした。このごろの学ぶ人は人に知られたいためにする。 ●誰のためでもない、自分のために学ぶのである。自分を向上させるために学ぶことが楽しいものだ。</p>	<p>始業式 教科オリエ ンテーション 学級活動</p>
<p>もっているものを 活かそう</p>	<p>⑩ 質、文に勝てば則ち野。文、質に勝てば則ち史。文質彬彬として然る後に君子なり。 （雍也篇）</p>	<p>○質朴さが装飾よりも強ければ野人であるし、装飾が質朴さよりも強ければ文書係りである。装飾と質朴とがうまくとけあつてこそ、はじめて君子だ。 ●もつて生まれた素朴さと身につけた教養の両者のバランスがとれて、はじめてできた人だといえる。 ●生まれたときの素直さや素朴さを忘れないで、努力して教養を積んでいくことが大切である。</p>	<p>修了式 卒業式 立志式 二分の一成 人式</p>
<p>とにかく がんばってみよう</p>	<p>⑪ 性、相い近し。習えば、相い遠し。 （陽貨篇）</p>	<p>○生まれつきは似かよっているが、しつけや習慣、教養でへだたれる。 ●人の生まれつきはよく似ていても、その後のみんなの学習いかんで大きな違いが出てくる。 ●努力するかしらないかで、自分の人生が変わるのだったから、一つがんばってみたいものだ。</p>	<p>学級活動 部活動</p>
	<p>⑫ これを知る者はこれを好む者</p>	<p>○知っているのは楽しむのは好むのには及ばない。好むというのには楽しむのには及ばない。 ●勉強でもスポーツでも、それを好きになることが</p>	<p>教科オリエ</p>

<p>好きこそものの 上手なれ</p>	<p>に如かず。これを好む者は これを樂しむ者に如かず (雍也篇)</p>	<p>まず上達の第一歩。それが好きになつたら、さらに、それをすることが楽しくなれば最高である。 ●勉強が楽しくなることは難しいかもしれないが、知らないことが分かる喜びを重ねることによって、勉強も楽しんでできるようになるものだ。</p>	<p>ンテーシヨ ン朝会 学級活動</p>
<p>学ぶことは 嬉しいこと</p>	<p>⑬ 学びて時にこれを習う、亦た 説ばしからずや。朋あり、遠 方より来たる、亦た樂しから ずや。 (学而篇)</p>	<p>○学んでは適当な時期におさらいをする、いかにも心嬉しいことだ。だれか友だちが遠い所からもたずねて来る、いかにも楽しいことだ。 ●先生から学んだことを何度も繰り返し反復していと、そのたびに理解が深まって向上していくのだから心がスカッとすることじゃないか。 ●かつての友がしばらくぶりに訪れて来ると、同じ道について語り合えるから、なんとも楽しいことだ。</p>	<p>各教科 学級活動 朝会</p>

◆◆ 友達にかかわること (人間関係) ◆◆

<p>伝えたいこと</p>	<p>章 句</p>	<p>意味 (○) ・ 解説 (●)</p>	<p>活用場面例</p>
<p>みんな 協力しよう</p>	<p>⑭ 礼の用は和を貴しと為す。 (学而篇)</p>	<p>○礼のはたらきとしては調和が貴いのである。 ●みんなで何かに取り組むときは、みんなで協力し合うことが大切だね。一人、勝手なことをしたらチームワークも何も無くなっちゃうよ。</p>	<p>学芸会 合唱コンク ール</p>
<p>いろいろな人と 友達になろう</p>	<p>⑮ 君子は周して比せず、 小人は比して周せず。 (為政篇)</p>	<p>○君子は広く親しんで一部の人におもねることはないが、小人は一部でおもねりあって広く親しまない。 ●特定の人とベタベタ付き合うのではなく、できるだけ多くの人と付き合うことを心がけることである。</p>	<p>学級活動</p>

◆◆ 友達にかかわること（人間関係） ◆◆

伝えたいこと	章句	意味（○）・解説（●）	活用場面例
自分勝手は よくないよ	①⑥ 利に放りて行なえば、 怨み多し。 （里仁篇）	○利益ばかりにもたれて行動していると、怨まれることが多い。 ●自分勝手なことばかりしていたら、みんなから見捨てられることになる。	学級活動 委員会活動
自分から進んで できる人になろう	①⑦ 徳は孤ならず、 必ず隣あり。 （里仁篇）	○道徳のある者は孤立しない。きっと親しい仲間ができる。 ●これは良いことと分かっているけれども、なかなか一歩を踏み出して行動に移せないことがある。しかし、勇気を出して一歩を踏み出してみるのだ。決して孤立するようなことはない。良いことをしていれば、必ずその行為を理解してくれる人が現れるものである。	
本当の友達を 作ろう	①⑧ 益者三友、 損者三友、 直きを 友とし、 諒を友とし、 多聞を 友とするは、 益なり。 （季氏篇）	○有益な友だちが三種、有害な友だちが三種。正直な人を友だちにし、誠心の人を友だちにし、もの知りを友だちにするのは、有益だ。 ●反対に、ためにならない友達というのはどんな人だろうね。口先だけの人、ずるい人、反対しない人だよ。	学級活動
友達を つくるときに 大切なこと	君子は和して同ぜず、 小人は 同じて和せず。 （子路篇）	○君子は人と調和するが雷同はしない。小人は雷同はするが調和はしない。 ●友達同士お互いに意見が違っているけれども、意見の違いを乗り越えて理解をすることが大切である。例えば、意見が違えばお互いに非難をし合い、意見が同じであれば馴れ合いになるような友人関係はよくない。 ●これは、友人関係にも言えるし、国と国との関係についても、同じことが言えるように思う。	野外活動 集団宿泊活 動 学級活動

<p>周りの友達から 教えられること は多い</p>	<p>友達のことを 知ろう</p>
<p>⑳ われさんになおこな 我三人行えば必らず我が師を 得。其の善き者を択びてこれ に従う。其の善からざる者に してこれを改む。 (述而篇)</p>	<p>㉑ 人の己れを知らざるを患えず、 人を知らざるを患うなり。 (学而篇)</p>
<p>○三人で行動したら、きつとそこに自分の師を見つ けられる。善い人を選んでそれに見ならい、善くな い人にはその善くないことをわが身について直すか らだ。 ●自分の周りの人はすべて自分の先生であると言っ てよい。 ●友達はすべて自分にはないと場所をもっているの で、よいところを見つけて、それを見習うようにす ればよい。</p>	<p>○人が自分を知ってくれないことを気にかけない で、人を知らないことを気にかけることだ。 ●とにかく人間は、周りの人が自分を理解してくれ ないことに不満を抱くものであるが、自分自身が周 りの人を理解していないことを反省する方が先では ないか。学校においても、周りの友達の意見にしつ かりと耳を傾け、理解するように心がけることが大 切である。</p>
<p>職場体験活 動 社会貢献活 動</p>	<p>始業式 学級活動</p>

◇◆◆ ことな人間に ◆◆◇

<p>伝えたいこと</p>	<p>くじけずに 最後まで やり遂げよう</p>
<p>章 句</p>	<p>⑳ 譬えば山を為るが如し。 未だ一簣を成さざるも、 止むは吾が止むなり。 (子罕篇)</p>
<p>意味 (○) ・ 解説 (●)</p>	<p>○例えば山を作るようなもの、もう一もつこという ところを完成しないのも、そのやめたのは自分がや めたのである。 ●できないことは、誰のせいでもない。自分がやる かやらないかで、できるできないが決まるのである。</p>
<p>活用場面例</p>	<p>運動会 体育会</p>

◆◆ こんな人間に ◆◆

伝えたいこと	章句	意味(○)・解説(●)	活用場面例
最後まで がんばろう	<p>(23) 力<small>ちから</small>足らざる者<small>もの</small>は、中道<small>ちゆうどう</small>にて廃<small>はい</small>す。今女<small>いまなんじ</small>は画<small>かぎ</small>れり。(雍也篇)</p>	<p>○力が足りない者とは、進めるだけは進んで途中でやめることになるが、今お前は自分から見きりをつけている。 ●余力があるのに、努力を怠って途中で投げ出すのは、自分で自分を見限ることだ。</p>	<p>運動会 体育会 部活動</p>
あせらず、 粘り強く 取り組もう	<p>(24) 速<small>すみ</small>かならんと欲<small>ほつ</small>すること母<small>な</small>かれ。小利<small>しょうり</small>を見<small>み</small>ること母<small>な</small>かれ。速<small>すみ</small>やかならんと欲<small>ほつ</small>すれば則<small>すなわ</small>ち達<small>たつ</small>せず。小利<small>しょうり</small>を見<small>み</small>れば則<small>すなわ</small>ち大成<small>だいじ</small>ならず。(子路篇)</p>	<p>○早く成果をあげたいと思うな。小利に気をとられるな。早く成果をあげたいと思うと成功しないし、小利に気をとられると大事はとげられない。 ●人間はつい急ぎすぎたり目先の利益に目を奪われるものである。しっかりと目標を決めて、それに向かつて焦らず一歩一歩前進することが大切である。</p>	<p>始業式 教科オリエンテーション</p>
良いライバルを もとう	<p>(25) 君子<small>くんし</small>は上達<small>じやうたつ</small>す、小人<small>しょうじん</small>は下達<small>かたつ</small>す。(憲問篇)</p>	<p>○君子は高尚なことに通じるが、小人は下賤なことに通じる。 ●朱に交われれば赤くなるが、よい競争関係になると、お互いに切磋琢磨し、向上していく。</p>	<p>各教科</p>
失敗を成功に 結びつけよう	<p>(26) 君子<small>くんし</small>は諸れ<small>こ</small>を己<small>おの</small>れに求<small>もと</small>む。小人<small>しょうじん</small>は諸れ<small>こ</small>を人<small>ひと</small>に求<small>もと</small>む。(衛霊公篇)</p>	<p>○君子は自分に反省して求めるが、小人は他人に求める。 ●人間は失敗しても、失敗の原因をしつかりと分析し、二度と同じ間違いをしないように心がければ、失敗を成功に結びつけることができる。</p>	<p>学芸会 合唱コンクール 委員会活動 係活動</p>
	<p>(27) 如之何<small>いかん</small>、如之何<small>いかん</small>と曰<small>い</small>わざる者<small>もの</small></p>	<p>○「どうしようか、どうしようか。」といわないよな者は、わたしにもどうしようもない。</p>	<p>運動会 体育会</p>

<p>何事にも 挑戦してみよう</p>	<p>人のよいところ を見つけよう</p>	<p>自分の言葉に 責任をもとう</p>	<p>自信をもって 行動しよう</p>	<p>善いことと 善くないことを 見分けよう</p>	<p>人のことも 考えて</p>
<p>は、吾れ如之何ともすること 末きのみ。 (衛霊公篇)</p>	<p>君子は人の美を成す。人の悪 を成さず。小人は是れに反す。 (顔淵篇)</p>	<p>君子は其の言の其の行いに過 ぐるを恥ず。 (憲問篇)</p>	<p>内に省みて疚しからずんば、 夫れ何をか憂え何をか懼れん。 (顔淵篇)</p>	<p>善を見ては及ばざるが如くし、 不善を見ては湯を探るが如く す。 (季氏篇)</p>	<p>己を脩めて以て人を安んず。 (憲問篇)</p>
<p>●たとえ難しくても、とにかく挑戦をしてみることだ。最初からあきらめてしまうような者には、誰も手をさしのべてくれない。失敗をおそれず、とにかく力一杯頑張ってみることだ。</p>	<p>○君子は他人の美点をあらわしすすめて成しとげさせ、他人の悪い点は成り立たぬようにするが、小人はその反対だ。 ●人の美や長所を心から喜べる人物でありたいものだ。</p>	<p>○君子は、自分の言葉が実践よりも以上になることを恥とする。 ●実行もしないのに、口だけ達者な人は嫌なものだ。</p>	<p>○心に反省してやましくなければ、一体、何を心配し何を恐れるのか。 ●自分の行動に自信と誇りがあれば、くよくよしたりびくついたりすることはない。</p>	<p>○よいことを見ればとても追いつけないようにそれに向かつて努力し、よくないことを見れば熱湯に手を入れたように急いで離脱する。 ●善いことにはドンドン取り組む。でも、善くないことから、サッサと身を引かなくてはいけない。</p>	<p>○自分を修養して人を安らかにすることだ。 ●自分だけ幸せであればいいという考えを捨てて、他人のことも考えられるようになりたいものだ。</p>
<p>職場体験活 動 部活動</p>	<p>各教科 学級活動</p>	<p>学級活動 グループ活 動</p>	<p>学級活動 委員会活動 係活動</p>	<p>学級活動</p>	<p>ボランティア 活動 社会貢献活 動</p>

◆◆ こんな人間に ◆◆

伝えたいこと	章句	意味(○)・解説(●)	活用場面例
<p>先のことを 考えて</p>	<p>③③ 人にして遠き慮り無ければ、必ず近き憂いあり。(衛霊公篇)</p>	<p>○人として遠くまでの配慮がないようであれば、きつと身近に心配ごとが起こる。 ●先のことを考えないで、目の前のことだけを考えて行動すれば、きつと先々心配ごとが出てくるものだ。 ●先々のことを考えようと、今、ちよつと我慢することだつて必要である。</p>	<p>集団宿泊活動 修学旅行</p>
<p>自分を 振り返ろう</p>	<p>③④ 躬自ら厚くして薄く人を責むれば、則ち怨みに遠ざかる。(衛霊公篇)</p>	<p>○われとわが身に深く責めて、人を責めるのをゆるくしていけば、怨んだり怨まれたりから離れるものだ。 ●自分には甘く、他人には厳しくというのでは、周りにから怨まれてしまうものだ。</p>	<p>学級活動</p>
<p>自ら努力しよう</p>	<p>③⑤ 人能く道を弘む。道、人を弘むるに非ず。(衛霊公篇)</p>	<p>○人間こそ道を広めることができるのだ。道が人間を広めるのではない。 ●この世の中を住みやすくしていくのは、そこに住んでいる人たちの努力にかかっている。 ●自分から取り組まないと、何事も成し遂げられない。</p>	<p>ボランティア活動 社会貢献活動</p>
<p>ほどほどが肝心</p>	<p>③⑥ 過ぎたるは、猶お及ばざるがごとし。(先進篇)</p>	<p>○ゆきすぎたのはゆきたりないのと同じようなものだ。どちら中庸を得ていない。 ●なにごとであれ、ほどほどつてというのが一番だ。</p>	<p>学級活動</p>
<p>正々堂々と</p>	<p>③⑦ 行くに徑に由らず。(雍也篇)</p>	<p>○歩くには近道をとらず、正道を歩んでいく。 ●ごさかしく立ち回ることなく、堂々と生きていくこととする人の姿は、すがすがしいものだ。</p>	<p>運動会 体育会 学級活動</p>
<p>まず 人の話を聞こう</p>	<p>③⑧ 君子は言を以て人を挙げず、</p>	<p>○君子は立派なことをいったからといって人を拔擢せず、また人によって性格が悪いからなどといって言葉をすてることはしない。</p>	<p>学級活動</p>

<p>過ちは素直に認めよう</p>	<p>勇氣のある人になろう</p>	<p>日々の心がけを</p>	
<p>④1 小人の過つや必らず文る。 (子張篇)</p>	<p>④0 義を見て為ざるは、勇なきなり。 (為政篇)</p>	<p>③9 君子に九思あり。 視るには明を思い、聴くには聰を思い、色には温を思い、貌には恭を思い、言には忠を思い、事には敬を思い、疑わしきには問いを思い、忿りには難を思い、得るを見ては義を思う。 (季氏篇)</p>	<p>人を以て言を廃せず。 (衛霊公篇)</p>
<p>● 過ちを取り繕ってはいけな 反省し改めることが大事である。</p>	<p>● 行すべきことを前にながら行わないのは、臆病 ● それが正義だと知りながら、それを実践しないとい ● 真の勇者とは、正義のために立ち向かっていく人</p>	<p>● このうち一つでも自分の好きな言葉を選んで覚えておきたい。</p>	<p>● 言葉を聞いただけでその人のことを評価してはならないし、たとえつまらないと思う人であっても、良いことを言っていれば、聞き流してはいけない。人の言うことは、まず聞いてみよう。</p>
<p>学級活動 グループ活動</p>	<p>ボランティア 社会貢献活動</p>	<p>修了式 卒業式 二分の一成 人式 立志式 学級活動</p>	<p>グループ活動</p>

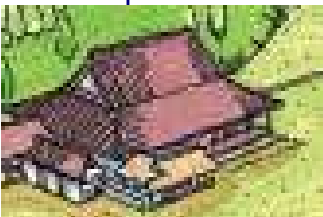
◆◆ こんな人間に ◆◆

伝えたいこと	章句	意味(○)・解説(●)	活用場面例
<p>自分の一日を 振り返ろう</p>	<p>④② 吾れ日に三たび吾が身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝うるか。 (学而篇)</p>	<p>○私は毎日何度も自分が身について反省する。人のために考えてあげてまごころからできなかったのではない。友達と交際して誠実でなかったのではない。よくおさらいもしないことを受けうりで人に教えたのではないかと。 ●毎日、自分を振り返り、反省することが大切だ。</p>	<p>帰りの会 学級活動</p>
<p>周りの人の言葉 に惑わされない</p>	<p>④③ 衆これを悪むも必らず察し、衆これを好むも必らず察す。 (衛霊公篇)</p>	<p>○大勢が憎むときも必ず調べてみるし、大勢が好むときも必ず調べてみて、盲従はしない。 ●周りの人の意見に惑わされるのではなく、自分の目で確かめ、よく考え判断することが大切である。</p>	<p>学級活動 グループ活 動</p>
<p>本当の過ちとは</p>	<p>④④ 過ちて改めざる、是れを過ちと謂う。 (衛霊公篇)</p>	<p>○過ちをしても改めない。これを本当の過ちというのだ。 ●同じ間違いを今後決して起こさないようにと心がけることが大切である。</p>	<p>学級活動 グループ活 動</p>
<p>相手に応じて 接し方を 考えよう</p>	<p>④⑤ 老者はこれを安んじ、朋友はこれを信じ、少者はこれを懐けん。 (公冶長篇)</p>	<p>○老人には安心されるように、友達には信ぜられるように、若者にはしたわれるようになることだ。 ●それぞれの人に応じ、ふさわしい接し方がある。</p>	<p>職場体験活 動 社会貢献活 動</p>
	<p>④⑥ 言 忠信、行 篤敬なれば、</p>	<p>○ことばにまごころがあり、行いがねんごろであれば、野蛮な外国でさえ思いどおり行なわれる。</p>	<p>職場体験活 動</p>

<p>自分の命を 大切にしよう</p>	<p>信頼される人になろう</p>
<p>④7 暴虎馮河して死して悔いなき者は、吾れ与にせざるなり。 (述而篇)</p>	<p>ん。 蛮貊の邦と雖ども行なわれ (衛霊公篇)</p>
<p>●虎に素手でたちむかったり河を歩いて渡ったりして、死んでもかまわないというような無鉄砲な男とは、私はいっしょにやらないよ。 ●自分の命を大事にしないような人と一緒に何事かをしようななどは思わないものだ。</p>	<p>●言葉に誠意があって信用でき、行いが慎み深ければ、信頼される人になれよう。</p>
<p>学級活動 野外活動</p>	<p>動</p>

このように使えます。

例えば、クラスの中でいじめが見つかったとき…
いじめをした子どもたちに「相手の嫌がることはしてはいけない」と、
『②己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ』を使って指導する。
また、そのいじめを黙って見ていた子どもたちに「正しいと思っただことをしないのは、本当に勇気があるとは言えない」と、
『④0義を見て為ざるは、勇なきなり』を使って指導する。



三 実践事例

論語は、発達段階に応じて意味や解釈等を深めていくことができます。
 児童生徒の実態や状況に合わせて取り入れやすいことから、チャレンジしてみましよう。
 小学校では、まず、短い章句をみんなで声を合わせて音読することからはじめましよう。

《こんな場面で使ってみましよう》

◇特別活動の中で◇

<p>児童会活動 生徒会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の時間に、クラス目標として論語の中の章句や言葉を使う。 ・担任の思いや担任からのメッセージを伝えるときに、論語の章句や言葉引用する。 ・年度始めの学級活動やオリエンテーション等で、集団づくりやグループ活動の「合い言葉」に論語の章句や言葉を使う。 ・集団づくりに効果的なメッセージのある章句を用いて、どうすれば一人一人を大切にできるかじっくり考えさせる。 ・お互いに協力したり思いやりたりして、よりよい人間関係を構築するための手立てとして、論語の章句や言葉を使って説明する。 ・学校や社会の出来事を振り返り、「もし自分がそこにいたら、どう行動していたか」を考える活動をする。その時のよりどころとして論語の章句や言葉を活用する。 ・備前市商工会制作の「論語カルタ」を活用し、学級や学年、全校等で「論語カルタ大会」を実施する。 ・立志式や二分の一人式等で、一つの区切りの年として、自分を見つめ、将来に思いをめぐらせる手立てとして使う。
<p>学校行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や委員会活動などで、人に役立つ行動の大切さを説明するときに、論語の章句や言葉を例示として使う。 ・事前学習で、行事の心構えや練習への構え等の説明のときに、教師の思いや伝えたいメッセージにあう論語の章句や言葉を選んで使う。 ・学校行事後の振り返りのときに、自分の活動を振り返る視点にしたり、学校行事を通して身に付けたことを自己評価する観点に使う。 ・閑谷学校での講堂学習に参加し、本物の場で本物に触れる機会を作る。

◇総合的な学習の時間の中で◇

探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事等を使って、社会の出来事をどう考えるか、論語の章句を基にグループで話し合わせる。論語の章句を日常生活や社会の出来事と関連づけて、論語の中と現実とのギャップを考えさせる。 ・論語の解釈を説明し、どのような場面でのような実践ができるか考えたり、論語の章句をもとに、自分の生活や行動を振り返ったりする。
体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導で、集団行動や公共のマナーで気をつけるべきことの説明の際、一つの材料にする。 ・事後活動で、活動を振り返る視点の例示に使ったり、今後の活動につなげたい意識や気づき、行動の説明の材料にする。

◇各教科の授業の中で◇

国語科で	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正し、発声の仕方に気をつけて、論語の音読や朗読をする。音読や朗読を通して、古典固有のリズムを味わい、論語に触れる。 ・学習と関連付けて、気に入った論語の章句を選び出し、「論語カルタ」を作成する。 ・音読、暗唱し、どのように解釈し、どのような場面でのように実践できるか考えてまとめる。
外国語科で	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に親しむために、日本の文化や歴史について簡単に英訳して伝える。 ・論語などの身近な日本の古典を英訳してみる。

◇教育課程外の時間の中で◇

朝の時間 帰りの時間	<ul style="list-style-type: none"> ・「今月の論語」を選び、全校朝会で校長がその論語についての話をし、全校児童生徒で唱える。 ・全校朝会で、「今月・今週のめあて」につながる論語の章句を紹介し、どんなところに気をつけるのか説明した後、全校児童生徒で唱える。 ・朝の会・帰りの会やショート・ホームルームで、「今月の論語」を各学級で唱える。 ・帰りの会で一日を振り返るきっかけづくりとする。
---------------	---

環境づくり

- ・「今月の論語」を教室や校内に掲示し、児童生徒に意識付ける。
- ・「今月の論語」を学校通信や学年だより等に掲載し、家庭・地域に発信する。
- ・クラス目標や「合い言葉」に論語の章句や言葉を引用し、教室に掲示して自分を振り返るよりどころにする。

《こんなことにも挑戦してみては》

◇紙芝居にする◇

一つの章句について、四枚綴りの構成に

①論語の章句

②意味

③解説

④こんな状況で
使える

◇寸劇にする◇

例えば、「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う」の章句を用いて

何度も同じ失敗をする生徒がいる。このような態度を続けていると困った事態を招くことになる……
そんな場面設定のもと、具体的な題材を用いてスキットの台本を生徒たちが作り、演じる。
少し時間はかかるかもしれないが、文化祭や学芸会などで使える。

四 参考図書

- 「論語」 金谷治（翻訳） 岩波文庫
- 「論語入門」 井波律子著 岩波新書
- 「閑谷学校あいうえお論語」公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会編
- 「論語物語」 下村湖人著 講談社学術文庫
- 「弟子・名人伝」 中島敦著 角川文庫
- 「論語力」 齋藤孝著 ちくま新書
- 「現代語訳 論語」 齋藤孝著 ちくま新書

五章句一覽

〈出典…金谷治翻訳「論語」〉

<p>① 樊遲、仁を問う。子曰わく、人を愛す。知を問う。子曰わく、人を知る。樊遲未だ達せず。子曰わく、直きを挙げて諸れを枉れるに錯けば、能く枉れる者をして直からしめん。樊遲退きて子夏に見えて曰わく、嚮に吾れ夫子に見えて知を問う、子曰わく、直きを挙げて諸れを枉れるに錯けば、能く枉れる者をして直からしめんと。何の謂いぞや。子夏曰わく、富めるかな、是の言や。舜、天下を有ち、衆に選んで臯陶を挙げしかば、不仁者は遠ざかれり。湯、天下を有ち、衆に選んで伊尹を挙げしかば、不仁者は遠ざかれり。(顔淵第十二)</p>	<p>② 子貢問うて曰わく、一言にして以て終身これを行うべき者ありや。子曰わく、其れ恕か。己のれの欲せざる所、人に施すこと勿かれ。(衛靈公第十五)</p>	<p>③ 子曰わく、巧言令色、鮮なし仁。(学而第一)</p>	<p>④ 子曰わく、歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るることを知る。(子罕第九)</p>	<p>⑤ 顔淵、仁を問う。子曰わく、己れを克めて礼に復るを仁と為す。一日己れを克めて礼に復れば、天下仁に帰す。仁を為すこと己れに由る。而して人に由らんや。顔淵曰わく、請う、其の目を問わん。子曰わく、礼に非ざれば視ること勿かれ、礼に非ざれば聴くこと勿かれ、礼に非ざれば言うこと勿かれ、礼に非ざれば動くこと勿かれ。顔淵曰わく、回、不敏なりと雖ども、請う、斯の語を事とせん。(顔淵第十二)</p>	<p>⑥ 子曰わく、学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。(為政第二)</p>	<p>⑦ 子曰わく、故きを温めて新しきを知る、以て師と為るべし。(為政第二)</p>	<p>⑧ 子曰わく、君子、博く文を学びて、これを約するに礼を以てせば、亦た以て畔かざるべきか。(雍也第六)</p>	<p>⑨ 子曰わく、古の学者は己れの為にし、今の学者は人の為にす。(憲問第十四)</p>	<p>⑩ 子曰わく、質、文に勝てば則ち野。文、質に勝てば則ち史。文質彬彬として然る後に君子なり。(雍也第六)</p>	<p>⑪ 子曰わく、性、相い近し。習えば、相い遠し。(陽貨第十七)</p>
--	---	--------------------------------	---	---	---	--	---	--	--	---------------------------------------

<p>⑫ 子曰わく、<u>これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。</u>（雍也第六）</p>	<p>⑬ 子曰わく、<u>学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。朋あり、遠方より来たる、亦樂しからずや。</u>人知らずして慍みず、亦た君子ならずや。（学而第一）</p>	<p>⑭ 有子曰わく、<u>礼の用は和を貴しと為す。</u>先王の道も斯れを美と為す。小大これに由るも行なわれざる所あり。和を知りて和すれども、礼を以てこれを節せざれば、亦た行なわれず。（学而第一）</p>	<p>⑮ 子曰わく、<u>君子は周して比せず、小人は比して周せず。</u>（為政第二）</p>	<p>⑯ 子曰わく、<u>利に放りて行なえば、怨み多し。</u>（里仁第四）</p>	<p>⑰ 子曰わく、<u>徳は孤ならず。必らず鄰あり。</u>（里仁第四）</p>	<p>⑱ 孔子曰わく、<u>益者三友。損者三友。直きを友とし、諒を友とし、多聞を友とするは、益なり。便辟を友とし、善柔を友とし、便佞を友とするは損なり。</u>（述而第七）</p>	<p>⑲ 子曰わく、<u>君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。</u>（子路第十三）</p>	<p>⑳ 子曰わく、<u>我三人行なえば必ず我が師を得。其の善き者を択びてこれに従う。其の善からざる者にしてこれを改む。</u>（述而第七）</p>	<p>㉑ 子曰わく、<u>人の己れを知らざることを患えず、人を知らざることを患う。</u>（学而第一）</p>	<p>㉒ 子曰わく、<u>譬えば山を為るが如し。未だ一簣を成さざるも、止むは吾が止むなり。譬えば地を平らかにするが如し。一簣を覆すと雖ども、進むは吾が往くなり。</u>（子罕第九）</p>	<p>㉓ 冉求曰わく、<u>子の道を説ばざるに非ず。力足らざればなり。子曰わく、力足らざる者は中道にして廢す。今女は画れり。</u>（雍也第六）</p>
--	---	---	---	--	---	--	--	--	---	--	--

<p>②4 子夏、莒父の宰と為りて、政を問う。子曰わく、速やかならんと欲すること母かれ。小利を見ること母かれ。速かならんと欲すれば則ち達せず。小利を見れば則ち大事成らず。（子路第十三）</p>	<p>②5 子曰わく、君子は上達す。小人は下達す。（憲問第十四）</p>	<p>②6 子曰わく、君子は諸れを己れに求む。小人は諸れを人に求む。（衛靈公第十五）</p>	<p>②7 子曰わく、如之何、如之何と曰わざる者は、吾れ如之何ともすること末きのみ。（衛靈公第十五）</p>	<p>②8 子曰わく、君子は人の美を成す。人の悪を成さず。小人は是れに反す。（顔淵第十二）</p>	<p>②9 子曰わく、君子は其の言の其の行に過ぐるを恥ず。（憲問第十四）</p>	<p>③0 司馬牛、君子を問う。子曰わく、君子は憂えず、懼れず、曰わく、憂えず、懼れず、斯れこれを君子と謂うべきか。子曰わく、内に省みて疚しからずんば、夫れ何をか憂え何をか懼れん。（顔淵第十二）</p>	<p>③1 孔子曰わく、善を見ては及ばざるが如くし、不善を見ては湯を探るが如くす。吾れ其の人を見る、吾れ其の語を聞く。隠居して以て其の志しを求め、義を行いて以て其の道を達す。吾れ其の語を聞く、未だ其の人を見ず。（季氏第十六）</p>	<p>③2 子路、君子を問う。子曰わく、己れを脩めて以て敬す。曰わく、斯くの如きのみか。曰わく、己れを脩めて以て人を安んず。曰わく、斯くの如きのみか。曰わく、己れを脩めて以て百姓を安んず。己れを脩めて以て百姓を安んずるは、堯・舜も其れ猶お諸れを病めり。（憲問第十四）</p>	<p>③3 子曰わく、人にして遠き慮り無ければ、必らず近き憂い有り。（衛靈公第十五）</p>	<p>③4 子曰わく、躬自ら厚くして、薄く人を責むれば、則ち怨みに遠ざかる。（衛靈公第十五）</p>	<p>③5 子曰わく、人能く道を弘む。道、人を弘むるに非ず。（衛靈公第十五）</p>	<p>③6 子貢問う、師と商とは孰れか賢れる。子曰わく、師や過ぎたり、商や及ばず。曰わく、然らば則ち師は愈れるか。子曰わく、過ぎたるは猶お及ばざるがごとし。（先進第十一）</p>
---	---	---	---	--	---	--	---	---	---	---	---	--

<p>③7 子游、武城の宰たり。子曰わく、女、人を得たりや。曰わく、澹台滅明なる者あり、行くに徑に由らず、公事に非ざれば未だ嘗て偃の室に至らざるなり。(雍也第六)</p>	<p>③8 子曰わく、君子は言を以て人を挙げず、人を以て言を廃せず。(衛霊公第十五)</p>	<p>③9 孔子曰わく、君子に九思あり。視るには明を思い、聴くには聡を思い、色には温を思い、貌には恭を思い、言には忠を思い、事には敬を思い、疑わしきには問いを思い、忿には難を思い、得るを見ては義を思う。(季氏第十六)</p>	<p>④0 子曰わく、其の鬼に非ずしてこれを祭るは、諂いなり。義を見て為ざるは、勇なきなり。(為政第二)</p>	<p>④1 子夏曰わく、小人の過つや、必らず文る。(子張第十九)</p>	<p>④2 曾子曰わく、吾れ日に三たび吾が身を省る。人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝うるか。(学而第一)</p>	<p>④3 子曰わく、衆これを悪むも必らず察し、衆これを好むも必らず察す。(衛霊公第十五)</p>	<p>④4 子曰わく、過ちて改めざる、是れを過ちと謂う。(衛霊公第十五)</p>	<p>④5 顔淵・季路侍す。子曰わく、盍ぞ各々爾の志しを言わざる。子路曰わく、願わくは車馬衣裘、朋友と共にし、これを敝るとも憾み無けん。顔淵曰わく、願わくは善に伐ること無く、勞を施すこと無けん。子路曰わく、願わくは子の志しを聞かん。子曰わく、老者はこれを安んじ、朋友はこれを信じ、少者はこれを懐けん。(公冶長第五)</p>	<p>④6 子張、行なわれんことを問う。子曰わく、言 忠信、行 篤敬なれば、蛮貊の邦と雖ども行なわれん。言 忠信ならず、行 篤敬ならざれば、州里と雖ども行なわれんや。立ちては則ち其の前に参するを見、輿に在りては則ち其の衡に倚るを見る。夫れ然る後に行なわれん。子張、諸れを紳に書す。(衛霊公第十五)</p>	<p>④7 子、顔淵に謂いて曰わく、これを用うれば則ち行い、これを舍つれば則ち蔵る。唯だ我と爾と是れあるかな。子路曰わく、子、三軍を行なわば、則ち誰れと与にせん。子曰わく、暴虎馮河して死して悔いなき者は、吾れ与にせざるなり。必ずや事に臨みて懼れ、謀を好みて成さん者なり。(述而第七)</p>
---	--	--	--	--------------------------------------	--	---	--	---	--	---